

モンゴル国 ハイラアスト 地域開発プログラム (MOG-181425)

World Vision
Mongolia

チャイルド・ストーリー 発明家を目指す双子の若き技術者



手に入る材料で新しい機械を発明しているイヘロド君とイジロド君（14歳）



父親のオルギルさんに教えてもらった設計の知識をもとに発明の構想を練っています

ハイラアスト地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすイヘロド君とイジロド君は、技術者だった父親のオルギルさんに設計や溶接の技術を教えてもらい、身の回りの材料で様々な機械を作っています。今は除雪と石炭運び、そして水汲みができるミニ・トラクターを製作中です。9年生の2人は、学校に通うかわら、病気で寝たきりのオルギルさんの世話をしています。2人と家族が住んでいるゲルは、冬には零下32度まで室温が下がるため、石炭を運んでストーブで部屋を温めるのも大切な仕事です。

オルギルさんは、イヘロド君とイジロド君に良い教育を受けさせ、発明家になるという夢を叶えてほしいと願っています。オルギルさんの期待に応えようと、2人はワールド・ビジョン（以下、WV）の支援でできたインターネット・センターや図書室に通い、積極的に勉強しています。

オルギルさんの夢は、2人の息子と一緒に、羊飼いの放牧を助けるための遠隔操作の飛行機を製作することです。高血糖と高血圧の持病があり、心臓発作にも襲われたオルギルさんは現在寝たきりですが、WVから血圧測定器の提供を受け、自宅で療養しています。「お父さんが元気になったら、一緒に飛行機を作りたい」と言うイヘロド君とイジロド君。未来の発明家は夢をふくらませています。

教育プロジェクト



幼稚園での教育の様子

教育環境の改善が、読解力の向上といった学習の成果につながっています

十分な読解力のある子どもの割合が増加

78% (2013年度) → 85% (2014年度)



経済成長の途上にあるモンゴルでは、教育や社会保障は必ずしも政府の優先施策ではありません。そこで、政府の支援が行き渡っていない学校や幼稚園への支援を行っています。教員を対象に教授法の研修を実施するとともに、「ミニ図書館」や「読む力を伸ばそう!」といったキャンペーン活動を教員と共催するなど、教育の質を高める取り組みを進めています。また、保護者を巻き込んだエッセイコンペなど様々なイベントも行いました。

これらの活動と子どもたちの努力により、支援地域の小学校5校で読解力のテストをしたところ、十分な読解力があると認められた子どもの割合が、2013年の78%から85%に増加しました。全国平均の89%を目指し、今後も学校の設備や教育環境の改善に引き続き取り組んでいきます。

経済開発プロジェクト



地域農園での野菜栽培についての研修の様子

すべての人が参加できる収入向上活動を支援しています

障がいを持つ人々を含む135人に職業訓練や資機材を支援



生産者グループの活動の普及・強化と、各世帯で生産・販売できる食料の増加を目的に、様々な研修・指導を行っています。市場調査を実施し、その結果に基づきグループや各農家が市場の需要に見合った生産活動を進めたところ、全体として世帯当たりの収入が2013年より7%向上しました。しかし一方で、地域の失業率はむしろ上昇しており、新たな課題も見えています。

経済は成長しても、社会で弱い立場に置かれた人々が就労から排除されたり、収入を得る機会から遠ざけられては真の意味での成長とは言えません。このため、ADPでは障がいを持つ人々を対象にした職業訓練にも取り組んでいます。

障がいを持つ人々を対象としたフェルトのスリッパ作りの研修



社会開発プロジェクト



子育てについて学ぶ母親たち

住民の間で地域への関心と愛着が強まっています

安全に暮らせる地域のモデル作りに取り組みました



地方から移住してきた人々が集まっているハイラアストのような地域では、どのようにして安全で暮らしやすい地域作りをするかが大きな課題です。地域住民同士や家族の関係を再構築し、人々がともに協力してより良い暮らしができるよう、2014年度も、「自分自身の態度に気づく」、「家族や子どもをどう導くか」、「良い親になるとは」などをテーマとした保護者向けの研修を行いました。また、地方政府と協力して地域を指定し、「安全に歩ける通り」と呼ばれるモデル地区作りにも取り組みました。

保健衛生プロジェクト

妊産婦と子どもたちを巻き込んだ栄養改善活動を進めています



地域に住む5歳未満の子ども **8,825**人の成長状態を確認しました

子どもの健康に大きな影響を与える栄養状態について、妊産婦に対する栄養指導や、学校での子ども同士の学びあいの活動を通して、改善するよう努めています。また、定期的に子どもの成長を確認することも重要なため、政府関係者とともに、地域に住むほぼすべての生後0～59カ月の子どもの成長状態を確認し、低体重など問題がある子どもの経過観察と改善指導を行いました。

また、WV全体の取り組みとして、子どもの健康改善の啓発活動「チャイルド・ヘルス・ナウ」を自治体の長や医療関係者を対象に行い、行政として子どもの健康を守る責任についての対話を持ちました。2015年度からは年2回、地域関係者が自主的に子どもたちの成長確認を行う予定です。

保健衛生分野では、衛生環境や、肉や乳製品に偏った食生活の改善が課題として残っており、今後取り組む必要があります。

成長確認の一環として歯科検診を受ける支援地域の子ども



栄養価の高い食事作りを学ぶ母親たち



支援地域の女性のインタビュー

障がいを持つ子どもたちのために活動しています

Q. 家族構成を教えてください。

A. 夫と2人の娘がいます。下の娘は障がいを持っています。

Q. 子どもの頃学校に通いましたか。

A. 高校まで通いましたが、祖母が亡くなり、働かなくてはならなくなったため、卒業はできませんでした。

Q. ADPのどのような活動に参加しましたか。

A. フェルトでスリッパを作る活動に参加し、今は障がいを持つ子どもたちのための施設で保護者に作り方を教えています。ADPからは、下の娘の薬、石炭、食料を支給してもらい、大変助かりました。子どもの権利についての研修に参加し、障がいを持つ私の娘もほかの子どもたちも、みな同じように大切にされる権利を持っていることを学びました。

Q. 今の夢を教えてください。

A. 昔から教師になるのが夢でした。今は障がいを持つ子どもたちのための施設で子どもたちの指導をしています。これからもこの施設での活動を続けていきたいです。



朝食をとるウヤンガさん（33歳）の家族



障がいを持つ子どもたちのための施設でボランティアとして活動しているウヤンガさん

Q. ADPでどのような仕事をしていますか。

A. 経済開発のプロジェクト担当として、地域の人々に家計管理の手法を教えたり、小規模ビジネスの立ち上げを支援したりしています。小規模ビジネスの起業家に対して、価格設定、市場開拓、販売の方法やビジネス提案書の書き方などについての相談に乗ります。ほとんどの時間を事務所外で過ごしています。

Q. ADPで働く上で原動力となっているものは何ですか。

A. 弱い立場に置かれていた人々がビジネスを始め、やがて私たちのパートナーとして地域の発展に貢献するようになるのを見るとき、大いに励まされます。また、地域の子どもたちが、「大きくなったらWVのスタッフになりたい」と言ってくれるのを聞くと励みになります。



ハイラアストADPスタッフ
ゾルジャーガル・プレヴドルジ (29歳、後列右)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認をしています。チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



成長報告を作成するためのイベントで自分たちの成長を報告しあう子どもたち

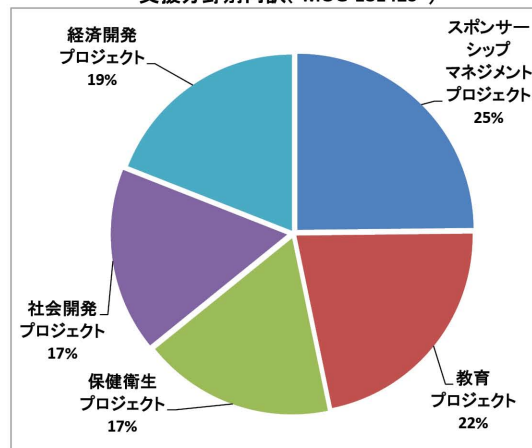
会計報告

収支計算書

自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

	MOG-181425 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	48,483,363
当期支援額	48,483,363
前期繰越金	3,178,423
プログラム支援額合計	51,661,786
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	12,388,248
教育プロジェクト	10,939,150
保健衛生プロジェクト	8,696,717
社会開発プロジェクト	8,384,457
経済開発プロジェクト	9,494,144
プログラム支出額合計	49,902,716
次期繰越額	1,759,070

支援分野別内訳(MOG-181425)



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 FAX : 03-5334-5359

email : dservice@worldvision.or.jp

ホームページ : www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。

ホームページにぜひお立ち寄りください。